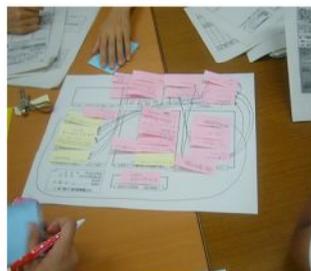


子どもの全体像の理解を踏まえた、生活全般での課題設定と学校での各授業での指導課題等を検討するための「ICF関連図」作成手順 (ver.3改²⁰¹¹⁰⁸⁰²)

(大久保、2007)をもとに改編



国立特別支援教育総合研究所

「特別支援教育におけるICF-CYの活用に関する研究

—活用のための方法試案の実証と普及を中心に—」研究チーム

1

この資料は、国立特別支援教育総合研究所による研究成果に基づいて作成された「子どもの全体像の理解を踏まえた、生活全般での課題設定と学校での各授業での指導課題等を検討するための」ICF関連図作成手順です。

特別支援教育におけるICF活用については、それぞれ活用の背景や目的が異なり、多様な取り組みが行われていること同研究所から報告されています。

したがって、活用にあたっては、それぞれの学校現場等での解決あるいは改善すべき課題等を明らかにした上で、活用の目的を明確にすることが重要と考えられます。

ここでは、「子どもの全体像の理解を踏まえた、生活全般での課題設定と学校での各授業での指導課題等を検討するため」という目的のもとで「ICF関連図」を作成する手順について紹介します。

左側の写真は、実際に作成されたICF関連図の例で、多様な取り組みとはいえ、このような図が作成されることが多いようです。

右側の写真は、ある特別支援学校で寄宿舎指導員と教員によってICF関連図作成をしている様子です。

「ICF関連図」とは

- ICFの概念図を模した図に対象児/者の情報を整理して、個々の情報、情報間の関連などを検討するための図。
- ICFには含まれない本人の気持ち(「主観・主体」等)を付加されたものも多い。
- 多くの情報を盛り込み、実態把握などに使われる通称「全体図」、ある特定の内容の実態にしぼったり、特定のゴールを想定したりして、ケース会議等で使われる通称「部分図」等がある。

2

まず最初に「ICF関連図」について紹介します。

「ICF関連図」とは、ICFの概念図を模した図に対象児/者の情報を整理して、個々の情報、情報間の関連などを検討するための図のことを指します。

もともとWHOから出されているものではなく、ICFを活用する取り組みの中で出てきたものの通称です。

ICF関連図には、ICFの概念図には含まれない、「主観・主体」等といわれる本人の気持ちの部分を付加されたものも多く見られます

ICF関連図には、対象児/者の多くの情報を盛り込み、実態把握などに使われる通称「全体図」や、ある特定の内容の実態にしぼったり、特定のゴールを想定したりして、ケース会議等で使われる通称「部分図」等があります。

続：「ICF関連図」とは

- その中から対象児/者の課題(≠できないこと)や指導/支援の手がかりを検討する等に使用されることが多い。
- 話し合いのツールとして使われたり、引き継ぎのための資料として使われたり、それらが併用されたりする。
- ICFチェックリスト等での評価後に作成されたり、今ある情報から作成されたりする(※今回のバージョンは後者です)。

ICF関連図について続けて説明します。

ICF関連図では、書き込まれた情報の中から対象児/者の課題や指導/支援の手がかりを検討する等によく使われています。

ここでいう課題とは、必ずしも本人にとって「できないこと」を意味するのではなく、学習課題等を指すことも多々あります。

ICF関連図は、話し合いのツールとして使われたり、引き継ぎのための資料として使われたり、それらが併用されたりします。

ICF関連図を作成するにあたっては、ICFあるいはその児童版であるICF-CYの分類項目を用いたチェックリスト等での評価した後に作成されたり、今ある情報をもとに書き出しながら作成されたりします。

今回のバージョンは後者となっています。

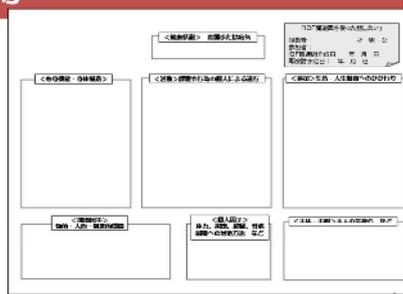
今回の「ICF関連図」作成の目的

子どもの全体像の理解を踏まえた、生活全般での課題設定と学校での各授業等での指導課題を検討すること

※生活全般の課題とは、できないことや難しいことではなく、本人の成長発達にとって、中心に据えて指導や支援を行いたい事柄のことです。

準備する物

- 1) 「ICF関連図」のワークシート(A3版以上が望ましい)
- 2) 付箋紙 1×5センチくらいのも
- 3) ICFの分類項目が分かるもの(「赤本」、分類項目一覧表など)
- 4) 鉛筆、消しゴム



あらためて、今回の「ICF関連図」作成の目的を確認します。

一連の作業を通して、子どもの全体像の理解を踏まえた、生活全般での課題設定と学校での各授業等での指導課題を検討すること を目的としています。

生活全般の課題とは、できないことや難しいことではなく、本人の成長発達にとって、中心に据えて指導や支援を行いたい事柄のことです。

次に、準備する物についてです。

- 1) 「ICF関連図」のワークシート

付箋紙を貼っていくためにA3版以上の大きさが望ましいです。A2のほうがより見やすかった例もあります。

- 2) 付箋紙

大きすぎると収まりづらくなるので、1×5センチくらいのものが望ましいです。

- 3) ICFの分類項目が分かるもの

いわゆる「赤本」といわれるICFやICF-CYの冊子、あるいはICF-CYの分類項目一覧表などです。

- 4) 鉛筆、消しゴム

適宜修正を可能にするため、ペンよりも鉛筆を用いたほうがよいようです。

ICF関連図ワークシート例

<健康状態> 変調または病気

対象者：
作成者：
ICF関連図作成日： 年 月 日
再検討予定日： 年 月 日

<心身機能・身体構造>

<活動>課題や行為の個人による遂行

<参加>生活・人生場面へのかかわり

<環境因子>
物的・人的・制度的環境

<個人因子>
体力、習慣、経歴、性格、
困難への対処方法 など

<主体・主観>本人の気持ち など

5
(大久保(2007)を改編)

ICF関連図ワークシートの例です。

研修に用いる際は一人に1枚ずつ資料として配っても良いですが、話し合いの時は、グループに一枚用意し、参加者の中心において用います。

「ICF関連図」作成の流れ

(1) 子どもの実態(含、気持ち)を付箋紙に書き出す



(2) 付箋紙を「ICF関連図」のワークシートに分類する



(3) 落としている情報がないかどうか、確認する



(4) 関連する事柄同士を矢印で結ぶ



(5) 生活全般での課題を検討する



(6) 学校での各授業等での指導課題、指導や支援の分担・再検討日等を決める

6

今回の「ICF関連図」作成は以下のような流れとなります

(1) 子どもの実態(含、気持ち)を付箋紙に書き出す

(2) 付箋紙を「ICF関連図」のワークシートに分類する

(3) 落としている情報がないかどうか、確認する

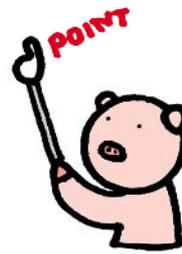
(4) 関連する事柄同士を矢印で結ぶ

(5) 生活全般での課題を検討する

(6) 学校での各授業等での指導課題、指導や支援の分担・再検討日等を決める

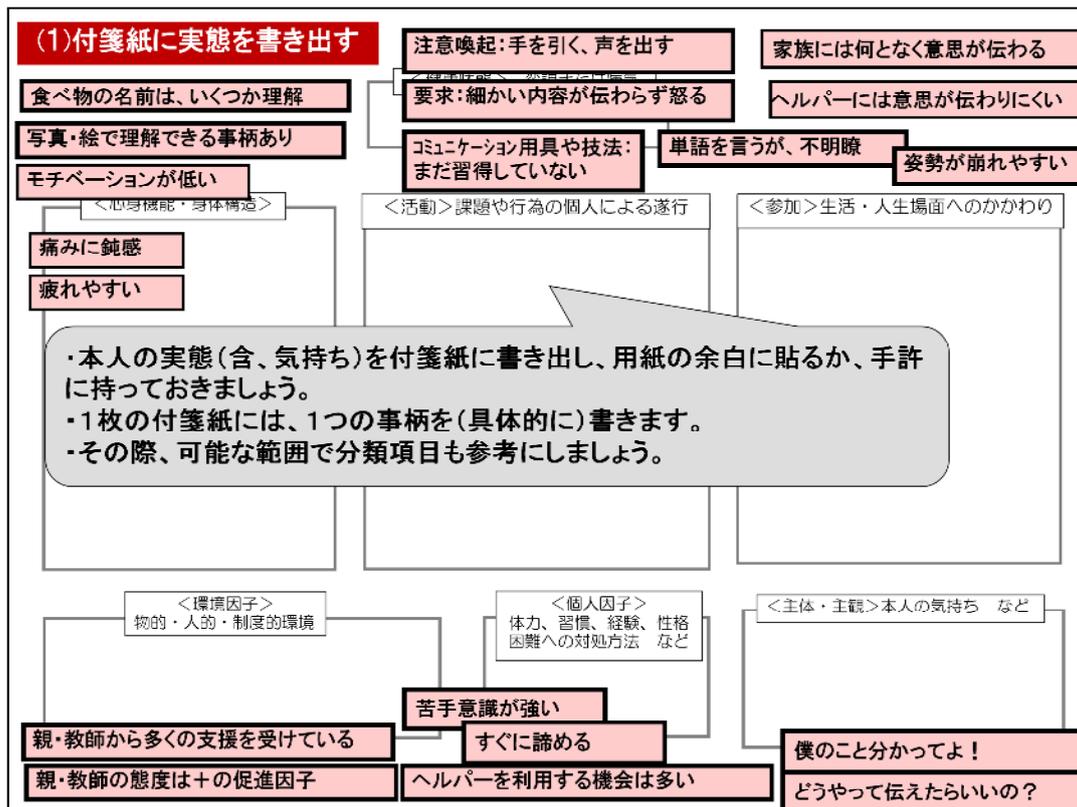
これらの作業を通して、図の作成そのものよりも、その過程で子どもについてより深く考えたり、話し合ったりすることを通して子どもの実態に多面的に捉え直すことを大事にしましょう。

実際の「ICF関連図」の作成例 を見てみましょう



7

それでは、「ICF関連図」の実際の作成手順を、仮想事例をもとに見てみましょう。



(1) 本人の実態（含、気持ち）を付箋紙に書き出し、用紙の余白に貼るか、手許に持っておきましょう。

付箋紙に書き出す時の留意点は次のスライドで再度確認しますが、1枚の付箋紙には、1つの事柄を（具体的に）書くようにします。その際、可能な範囲で「赤本」等を見ながら、分類項目も参考にしましょう。

ここではピンクの付箋紙を用いています。ピンクでなくても良いですが、複数の色を用いず、一つの色にしたほうが視覚的な整理はしやすくなります。

ここでは、話し合いに参加したメンバーで、色々な視点から自由に考えていくことが大切です。

付箋紙に書き出すときの留意点

- 一枚の付箋には一つの情報を短く書く。

例)○ 姉の側を離れない 面倒見の良い優しい姉

× 姉が面倒見がよく優しいので、
姉の側を離れようとしな

- 難しいこと、苦手なこと等のマイナス面だけでなく、できること、得意なこと等のプラスの面も含めて書く。
- 場面によって違いがあるような時は、本人の様子と共に状況に関する情報を書く。(※後でそれらを線で結ぶ)

例) 集中して学習に取り組む 取り出し指導

落ち着きがない 縦割り学習

9

付箋紙に書き出すときの留意点を3点述べます。

1) 一枚の付箋には一つの情報を短く書くようにします。

例を挙げます

- ・ 姉の側を離れない、面倒見の良い優しい姉

はよいですが、

- ・ 姉が面倒見がよく優しいので、姉の側を離れようとしな

のように因果関係が一つにまとめられることは望ましくありません。

そのことは、後からそれぞれの事項の相互作用を考える際に検討することになります

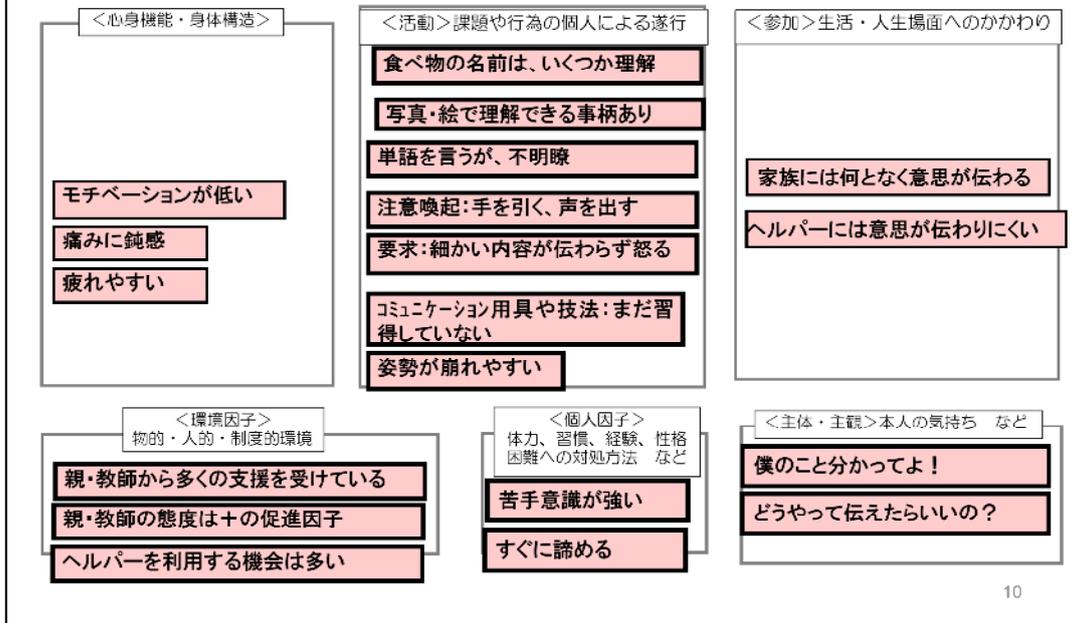
2) 難しいこと、苦手なこと等のマイナス面だけでなく、できること、得意なこと等のプラスの面も含めて書くようにします。

3) 場面によって違いがあるような時は、本人の様子と共に状況に関する情報を書くようにし、後でそれらの相互作用関係を考え、線で結んでいくこととなります。

例えば、 集中して学習に取り組む、取り出し指導、落ち着きがない、縦割り学習 などです。

(2)付箋紙の分類

- ・(1)で書いた付箋紙を、順にワークシートの枠(活動・環境因子など)にはります。同じ内容の付箋は確認し合いながら1枚にするようにします。
- ・次のスライドにある定義や分類項目一覧表、「赤本」等を参考にして、当てはまる枠を検討しましょう。



10

付箋紙の分類をします。

(1)で書いた付箋紙を、順にワークシートの枠(活動・環境因子など)にはります。同じ内容の付箋は確認し合いながら1枚にするようにします。

次のスライドにある定義や分類項目一覧表、「赤本」等を参考にして、当てはまる枠を検討しましょう。

(参考)ICFの各次元・要素の定義・内容等

心身機能: 身体系の生理的機能(心理的機能を含む)

身体構造: 器官、肢体とその構成部分などの、身体の解剖学的部分

活動: 課題や行為の個人による遂行

参加: 生活・人生場面への関わり

(※「参加」と「活動」の項目は分けられていません)

環境因子: 人々が生活し、人生を送っている物的・社会的・態度的環境(※マイナスである阻害因子だけでなく、プラスとなる促進因子にもなりえます)

個人因子: 個人の人生や生活の特別な背景(※具体的な分類項目はありません)

※主体・主観: 本人の気持ち (←本来ICFには含まれません)

付箋紙を分類する際に参考となるICFの各次元・要素の定義・内容等は以下の通りです。

心身機能: 身体系の生理的機能(心理的機能を含む)

身体構造: 器官、肢体とその構成部分などの、身体の解剖学的部分

活動: 課題や行為の個人による遂行

参加: 生活・人生場面への関わり

「赤本」では、「参加」と「活動」の項目は分けられていませんので、個人に完結している内容は活動に、人とのかかわりや生活・人生にかかわる場合は参加として整理しましょう。

環境因子: 人々が生活し、人生を送っている物的・社会的・態度的環境

環境因子はマイナスである阻害因子だけでなく、プラスとなる促進因子にもなりえます

個人因子: 個人の人生や生活の特別な背景

「赤本」に例は挙がっていますが具体的な分類項目はありません

主体・主観: 本人の気持ち

本来ICFには含まれませんが、重要な内容だと考えられます。

付箋紙を分類する際の留意点

- 誰かが進行役になりながら、話し合いを進める。
- 一人が一つの付箋紙を読みあげながら、構成要素の枠に分類する。同じ内容が書かれた付箋紙があるときは、自分も同じであることを伝え、その付箋紙と重ねて貼る。
- 付箋紙に同じ内容が書かれていても、状況等の捉えた場面が違うこともあるので、付箋紙の内容を書いた理由の説明を適宜加える。
- 分類の際はスライドにある定義や分類項目一覧表、「赤本」等を参考にして、当てはまる枠を検討する。
 - 例)①運動について苦手の状況の場合
 - 苦手意識のほうを重視する場合は主観・主体へ
 - 運動全般の不器用さ等の場合は、活動へ
 - 機能や構造に課題がある場合は、心身機能・身体構造へ
 - 複数のところに分けて、それぞれについて書くこともできる
 - ②DSが好き→興味関心に関することとして 個人因子へ 等
- 付箋紙の分類時に迷う際は、どこか便宜的に貼っておいて、後から行うで繋いでいく作業の際にあらためて考える。(※どこに分類するかを考えることに労力をかけすぎない。)

12

(2) 付箋紙を分類する際の留意点を5点述べます。

1) 誰かが進行役になりながら、話し合いを進めましょう。

2) 一人が一つの付箋紙を読みあげながら、構成要素の枠に分類する。同じ内容が書かれた付箋紙があるときは、自分も同じであることを伝え、その付箋紙と重ねて貼っていったり、一つにまとめなおしたりします。

3) 付箋紙に同じ内容が書かれていても、状況等の捉えた場面が違うこともあるので、付箋紙の内容を書いた理由の説明を適宜加えましょう。

4) 分類の際はスライドにある定義や分類項目一覧表、「赤本」等を参考にして、当てはまる枠を検討する。

例え

①運動について苦手の状況の場合

- 苦手意識のほうを重視する場合は主観・主体へ
- 運動全般の不器用さ等の場合は、活動へ
- 機能や構造に課題がある場合は、心身機能・身体構造へ
- 複数のところに分けて、それぞれについて書くこともできる

②DSが好き→興味関心に関することとして 個人因子へ 等です。

5) 付箋紙の分類時に迷う際は、どこに分類するかを考えることに労力をかけすぎず、とりあえずどこか便宜的に貼っておいて、後から行うで繋いでいく作業の際にあらためて考えるようにしましょう。

**(3) 落として
いる情報の
有無の確認**

- ・空欄の多いところ等、落としている情報がないか確認しましょう。
- ・「赤本」や分類項目一覧表を参考にして、落としている情報がないかどうか確認してみましょう。
- ・分類項目の中に、関連する事柄を見つけたときは、付箋紙を追加して書きましょう。

<心身機能・身体構造>

モチベーションが低い

痛みに鈍感

疲れやすい

<活動>課題や行為の個人による遂行

食べ物の名前は、いくつか理解

写真・絵で理解できる事柄あり

単語を言うが、不明瞭

注意喚起:手を引く、声を出す

要求:細かい内容が伝わらず怒る

コミュニケーション用具や技法:まだ習得していない

姿勢が崩れやすい

<参加>生活・人生場面へのかかわり

家族には何となく意思が伝わる

ヘルパーには意思が伝わりにくい

<環境因子>
物的・人的・制度的環境

親・教師から多くの支援を受けている

親・教師の態度は+の促進因子

ヘルパーを利用する機会が多い

<個人因子>
体力、習慣、経験、性格
困難への対処方法 など

苦手意識が強い

すぐに諦める

<主体・主観>本人の気持ち など

僕のこと分かってよ!

どうやって伝えたらいいの?

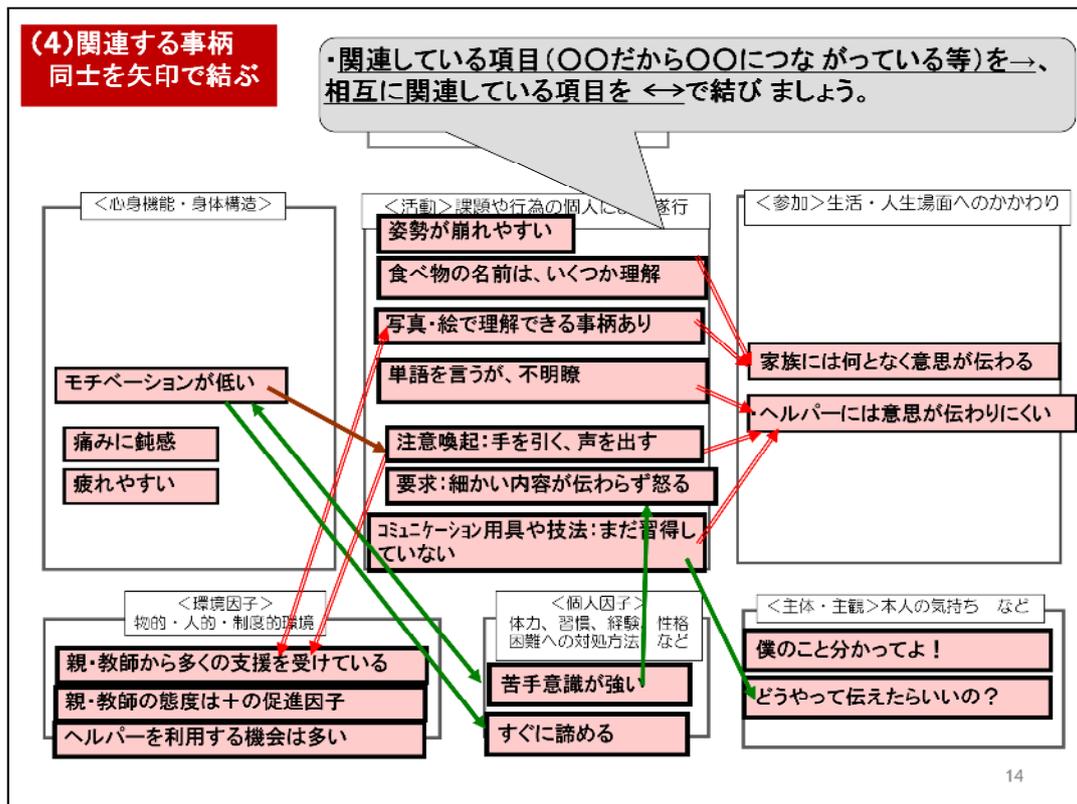
13

(3) 落としている情報の有無の確認をします。

・ワークシートを埋めることが目的ではありませんが、空欄の多いところ等、落としている情報がないか確認しましょう。

・「赤本」や分類項目一覧表を参考にして、落としている情報がないかどうか確認してみましょう。

・分類項目の中に、関連する事柄を見つけたときは、付箋紙を追加して書きましょう。



(4) 関連する事柄同士を矢印で結びます

・関連している項目(〇〇だから〇〇につながっている等)を→、相互に関連している項目を↔で結びましょう。

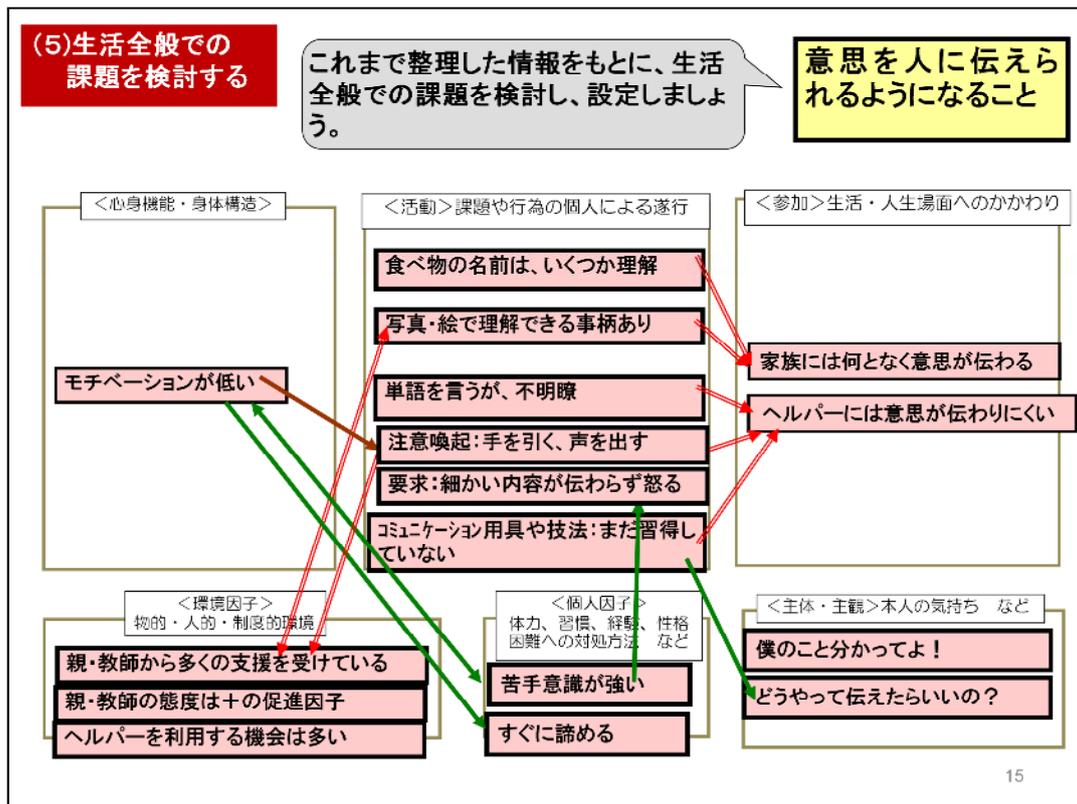
・付箋紙同士をつなぐ前に、似通った内容の付箋紙を固めて○で囲み、小さい意味のまとまりを作ってまとめる作業を行ってつないでいった方が使いやすい場合もあります。

・この事例では、

活動の欄にある「コミュニケーション用具や技法:まだ習得していない」のために、参加の「ヘルパーには意思が伝わりにくい」が生じていると考えられ、→が引かれています。

また、心身機能・身体構造の欄にある「モチベーションが低い」と、個人因子の欄にある「苦手意識が強い」は相互に関連していると考えられ、↔で結ばれています。

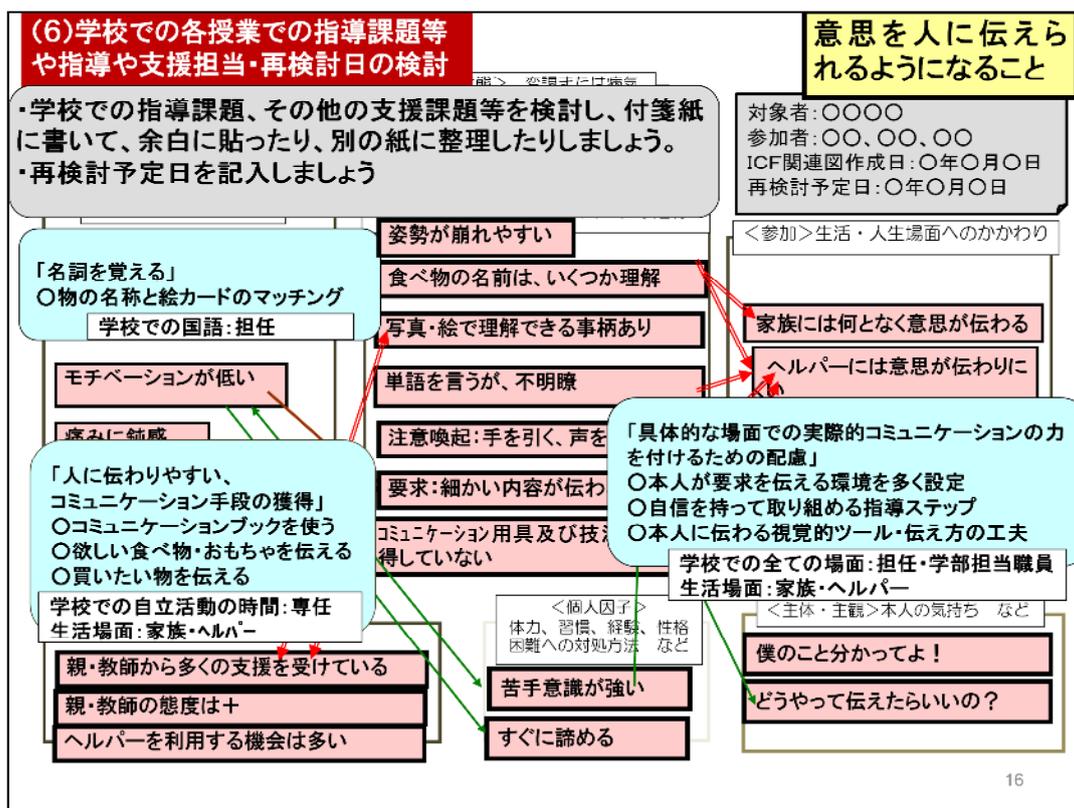
・分かりにくくならないように、適宜付箋紙をずらしたり、薄く鉛筆で書いたりするとよいと思われます。



(5)生活全般での課題を検討します。

これまで整理した情報をもとに、話し合いながら、生活全般での課題を検討し、設定しましょう。

この事例では、「意思を人に伝えられるようになること」となっていますが、複数が考えられる時は、優先順位などを決めることも考えられます。



(6) 学校での各授業での指導課題等や指導や支援担当・再検討日の検討しましょう

・学校での指導課題、その他の支援課題等を検討し、付箋紙に書いて余白に貼ったり、別の紙に整理したりしましょう。

この事例では「意思を人に伝えられるようになること」と中心的な課題に対応する具体的な指導課題として、

「名詞を覚える」という課題が考えられ、物の名称と絵カードのマッチングの学習をすることが考えられ、学校の国語の授業の中で担任が行うことになっていきます。

一方、ICFは生活全体を捉えるものなので、そこから導き出される課題は、学校の授業だけで扱うとは限りません。

この事例では、「人に伝わりやすい、コミュニケーション手段の獲得」という課題について、コミュニケーションブックを使う、

欲しい食べ物・おもちゃを伝える、買いたい物を伝える、といった具体的な取り組み内容が考えられ、

これらは、学校だけでなく、生活場面の中で家族やヘルパーとともに支援されることになっています。

・最後に、再検討予定日を記入しましょう。

できあがった関連図は、写真にとるなどして、それぞれで共有するとよいと思われます。

情報の管理には十分配慮しましょう。